

考えよう やって良いこと 悪いこと

〜休み時間〜

(低・中学年用)

作：神奈川県警察 小島久美子

絵：神奈川県警察 平野洋子

【表紙】

◎ 今日は、「やって良いこと、悪いこと。」について、皆さんと一緒に、勉強していきましょう。

◎ これから、紙芝居をします。そして、紙芝居の途中で、皆さんに、

これは、やって良いことでしょうか。

やってはいけない悪いことでしょうか。

と質問します。皆さんは、質問をよく聞いて、手をあげて教えてください。

◎ では、一回練習をしてみましょう。

宿題がありました。でも、大好きなテレビを見たので、宿題はやらず、次の日、学校に行きました。これは、やっても良いことでしょうか。それとも、やってはいけない悪いことでしょうか。

・ やっても良いことだと思う人。

・ やってはいけない悪いことだと思う人。

◎ ありがとうございます。手を下げてください。

そうですね。やってはいけない悪いことです。

◎ それから、今日は、犯罪になるかどうか質問します。

犯罪というのは、「警察に捕まる悪いこと」をすることです。

◎ では、これも練習をしてみましょう。

どうしても食べたかったので、お店にあるチョコレートをお金を払わず家に持ち帰りました。これは、警察に捕まる犯罪になるでしょうか。それとも、犯罪にはならないでしょうか。

・ 犯罪になると思う人。

・ 犯罪にはならないと思う人。

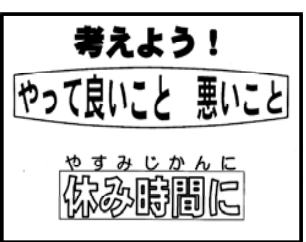
◎ ありがとうございます。手を下げてください。

答えは、犯罪になります。お店の物を盗むことを「万引き」と呼んでいますが、万引きは、どろぼうで、どろぼうは、「窃盗罪」という犯罪です。

◎ 今のように、自分で考え、手を上げて教えてください。間違えてもかまいません。

この勉強が終わってからは、間違えず、正しい行動をとっていきましょう。

◎ それでは、「考えよう やって良いこと 悪いこと 休み時間に」の始まり始まり。



演出ノート

○子どもたちに語りかける。

○挙手を求める。

○挙手を求める。

○挙手を求める。

○挙手を求める。

フタシ太 「ちょっと待てよ。今、わざと、ぶったたろう。」

学校の休み時間、イタズラ君は、追いかけてっこをしようと思い、フタシ太君の頭をわざと叩いたのです。

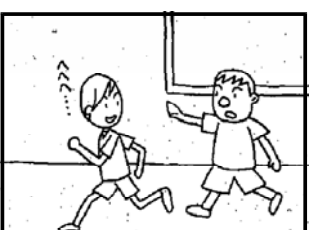
イタズラ 「フタシ太君が怒った。逃げろー。」

イタズラ君が、教室の中を走り出しました。フタシ太君も、

フタシ太 「待てー。」

とイタズラ君を追いかけてました。

そのときです。



演出ノート

- ・強い口調でふざけて
- ・ナレーションはゆっくり
- ・ふざけて楽しそうに
- ・強い口調で

『ガッ!』

イタズラ君は、タンキ君の背中に、勢いよくぶつかってしまったのです。

タンキ君は、突然、イタズラ君に体当たりされ、顔が壁にぶつかってしまいました。

イタズラ 「うわあー!」

よそ見をしながら走っていたイタズラ君は、タンキ君にぶつかり、大声をあげました。

◎ それでは、ここで、皆さんに質問します。

イタズラ君とブタレ太君は、教室の中で追いかけてっことをしています。

教室の中で追いかけてっことをすることは、やっても良いことでしょうか。やっってはいけない悪いことでしょうか。

答えてくれる人は、手をあげてください。

(二〜三人に考えを聞く。)

◎ ありがとうございます。

教室の中で走り回り、人にぶつかったら危ないです。廊下も同じですね。

教室や廊下だけでなく、人が大勢いるところで走ったり、手を大きく振り回したり、物を投げたりすると、他の人に怪我をさせてしまうことがあります。

いつでも、まわりの様子を見て、危なくないか、他の人に迷惑かけないかを考え、行動しましょう。

では、お話の続きを見ていきましょう。



演出ノート

・驚いたように

○子どもたちに語りかける。

○場面1の絵を示しながら、問いかける。

○挙手を求め数人を指す。

※学校内のルールについて、「良い」、「悪い」と言い切ることはしません。

言い切る場合は、学校と事前に打ち合わせをしましょう。

タンキ 「痛い。」

タンキ君は、おでこをおさえています。

イタズラ 「あつ、血が出る。大丈夫。」

イタズラ君は、タンキ君に声をかけました。

◎ それでは、ここで、皆さんに質問します。

イタズラ君は、わざとではありませんが、タンキ君にぶつかり、タンキ君に怪我をさせてしまいました。

イタズラ君がタンキ君に怪我をさせたことは、わざとではないので、仕方がないことでしょうか。それとも、怪我をさせているので悪いことになるのでしょうか。

- ・ 仕方がないことだと思う人。
- ・ 悪いことになると思う人。

◎ これは、悪いことです。

まわりの様子を見て、「危ないから、走らない。」と考え行動していれば、怪我は防げました。

注意をしないで行動し、他の人に迷惑をかけることは、悪いことです。

そして、わざとではなくても、人に怪我をさせた場合、犯罪になることもありま

す。「わざとではない。」という言い訳は、通用しません。

やって良いことが、悪いことか、自分で考え、正しい行動がとれるようになりま

しょう。

では、お話の続きを見てみましょう。



演出ノート

・ 声をしぼりだすように

・ 驚いて心配そうに

○ 子どもたちに語りかける。

○ 挙手を求める。

○ 挙手を求める。

※刑法の過失傷害罪。

○ 文字を示し、ボードに貼る。

タンキ 「なにするんだよ。ひびけるなっ。」

タンキ君は、イタズラ君を殴りました。

タンキ君は、おでこがとても痛く、頭にきてしまったのです。

◎ それでは、ここで、皆さんに質問します。

お話のように、理由もなくぶつかってきて、怪我までさせられた場合、一回くらいなら、相手を殴っても良いでしょうか。それとも、殴ってはいけないでしょうか。

- ・ 一回だけなら、相手を殴っても良いと思う人。
- ・ 一回でも、殴ってはいけないと思う人。

◎ 答えは、どのような理由があっても、人を殴ることはいけないことで、悪いことです。

◎ では、友だちが悪い場合、殴ることは、犯罪になるでしょうか。犯罪にはならないでしょうか。

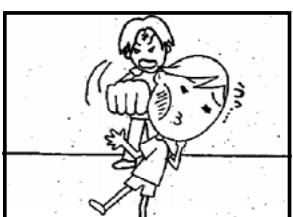
- ・ 友だちが悪くても、殴れば犯罪になると思う人。
- ・ 友だちが悪いから、殴っても犯罪にはならないと思う人。

◎ 答えは、犯罪になります。

どのような理由があっても、人を殴ることは犯罪になります。人を殴ったり、蹴ったり、押したりすることはやめましょう。

どんなに頭にきても、悪いことはしない、強い心、強い気持ちを持ちましょう。

では、お話の続きを見てみましょう。



演出ノート

・ 怒って感情的に

○子どもたちに語りかける。

○ 拳手を求める。

○ 拳手を求める。

○ 拳手を求める。

○ 拳手を求める。

※刑法の暴行罪や傷害罪。

○ 文字を示し、ボードに貼る。



イタズラ 「痛いなあ。わざとぶつかった訳じゃないのに、何するんだよ。」

イタズラ君は、タンキ君の胸倉をつかみました。

二人は、にらみあっています。

タンキ君は、イタズラ君に体当たりされ、顔が壁にぶつかり、痛い思いをさせられたことに怒っているのです。

イタズラ君も、タンキ君に殴られたことを怒っています。

◎ それでは、ここで、考えてみましょう。

このあと、皆さんがイタズラ君だったら、どういう行動をとりますか。

(拳手を求めず、「どうしますか。」と問いかけながら、無作為に二〜三人を指し、考えを聞く。)

(または、「答えてくれる人は、手をあげてください。」と語りかけ、二〜三人から考えを聞く。)

◎ では、次に、皆さんがタンキ君だったら、どういう行動をとりますか。

(拳手を求めず、「どうしますか。」と問いかけながら、無作為に二〜三人を指し、考えを聞く。)

(または、「答えてくれる人は、手をあげてください。」と語りかけ、二〜三人から考えを聞く。)

◎ イタズラ君は、タンキ君に殴られたことを怒る前に、教室で追いかけてっことをしたことを反省し、タンキ君にぶつかったことを謝ることが大切ですね。

タンキ君は、どんな理由があっても、イタズラ君を殴ることはいけないことなので、そのことを反省し、イタズラ君に謝ることが大切です。

また、友だちに反省して欲しいことは、言葉を使って伝えていきましょう。

つかみあったり、にらみあっても、問題は解決しません。

自分の悪かったことは、素直に反省して謝りましょう。そして、仲直りをしましょう。

では、イタズラ君とタンキ君は、このあと、どうしたでしょう。

お話の続きを見てみましょう。

演出ノート

・ 文句を言うように

○ 子どもたちに語りかける。

○ 画面のイタズラ君を指し問いかける。

○ 数人を指す。

(答えられないときは、次の質問をする。)

○ 画面のタンキ君を指し問いかける。

○ 数人を指す。

(答えられないときは、次の説明をする。)

○ 場面1、2の画面を指しながら説明する。

○ 場面4の画面を指しながら説明する。

二人は、殴り合いのケンカをはじめてしまいました。
それを見て、直ぐに、ナカヨちゃんが言いました。

ナカヨ 「やめなよーっ。ケンカは、ダメだよ。」

ケンカは、見ている私たちだって、嫌な気持ちになるんだよ。」

ナカヨちゃんが、大声でケンカを止めると、イタスラ君、タンキ君の二人は、考
えずに行動したことが、ちょっと恥ずかしくなり、ケンカをやめ、離れました。

二人がケンカをやめたので、ナカヨちゃんは、ホッとした顔をして、

ナカヨ 「あー、よかった。タンキ君、保健室に行ったほうがいいよ。」
と言うと、タンキ君は、

タンキ 「うん。そうする。」

と言い、友達と保健室に向かいました。ナカヨちゃんは、

ナカヨ 「中休みだよ。なわとびの練習しよう。」

と、クラスみんなに声をかけ、教室を出ていきました。

明日は、体育の時間に、なわとびのテストがあるのです。

みんなは、なわとびを持って教室を出て行きました。

でも、追いかけてこをしていたイタスラ君とフタシ太君の二人だけは、まだ、教
室の中でグスグスしています。



演出ノート

・大きな声ではっきり

・安心したように

・素直に

・元気に明るく

イタズラ 「もー、頭にくる。」

イタズラ君は、フタシ太君と二人だけになると、怒鳴りながら、掃除用具入れを何度も蹴飛ばしました。

◎ それでは、ここで、皆さんに質問します。

教室にある掃除用具入れは、人ではないから、蹴飛ばしても良いでしょうか。それとも、掃除用具入れも、蹴飛ばすことは、やってはいけない悪いことでしょうか。

- ・ 掃除用具入れは、蹴飛ばしても良いと思う人。
- ・ 蹴飛ばすことは、悪いことだと思う人。

◎ 人ではなくても、蹴飛ばすことは、悪いことです。

◎ では、この場面で、もう一つ、質問します。

蹴飛ばしたことで、掃除用具入れを壊してしまったら、それは、犯罪になるでしょうか。犯罪にはならないでしょうか。

- ・ 犯罪になると思う人。
- ・ 犯罪にはならないと思う人。

◎ 答えは、犯罪になります。

壊れてしまえば、クラスのみんなは、いつもどおり、掃除用具入れを使うことができなくなります。また、掃除用具入れは修理しないと使えなくなってしまうです。

他の人に迷惑をかけたためにも、自分の物と同じように、学校にある物や公園にある物など、みんなで使う物も大切にしましょう。



演出ノート

・イライラしたように

○子どもたちに語りかける。

○挙手を求める。

○挙手を求める。

○挙手を求める。

○挙手を求める。

※刑法の器物損壊罪。

そばにいたフタレ太君は、

フタレ太 「あんまり、怒るなよ。」

と、イタズラ君をなだめました。

でも、イタズラ君は、言いました。

イタズラ 「僕は、わざとぶつかった訳じゃないんだよ。

でも、タンキ君は、わざと僕を殴ったんだ。

タンキ君の方が、絶対悪いよ。もう、頭にくる。」

そう言い、まだ、怒った気持ちがおさまりません。



演出ノート

・なだめるように

・文句を言うように

イタズラ 「そうだ。」

イタズラ君は、タンキ君の机に行き、タンキ君の国語のノートを取り出し、

イタズラ 「タンキ君のノートに落書きしちゃおう。」

と言いながら、マジックで大きく「バカ」と書いたのです。

ブタレ太君は、どうして良いか分からず、近くで見えています。

イタズラ君は、

イタズラ 「こんなの、捨てちゃえ。」

と言い、落書きをしたノートをゴミ箱に捨てようとしています。

◎ 友だちの物に落書きをしたり、隠したり、捨てたりすることは悪いことです。

それでは、皆さんに質問します。友だちのノートに、消えないマジックで「バカ」と書くことは、犯罪になるでしょうか。犯罪にはならないでしょうか。

- ・ 犯罪になると思う人。
- ・ 犯罪にはならないと思う人。

◎ 答えは、犯罪になります。

書いた人は、いたずらのつもりでも、友だちは、今までどおりノートが使えなくなってしまうので、とても悪い行為で、犯罪になります。

隠すことや、捨てることも、同じように犯罪になります。

「犯罪になるからやらない。」「犯罪にならないから、やってもいい。」「と考えるのではなく、自分がされたら嫌なことを他の人にするのはやめましょう。

◎ では、この場面で、もう一つ、質問します。

みなさんが、ブタレ太君だったら、このように友だちが悪いことをしているとき、どうしますか。

答えてくれる人は、手をあげてください。

(二〜三人に考えを聞く。)

◎ いろいろな考えがありますね。友だちが、間違えた行動をとっているときは、

- ・ 「ダメだよ。」「やってはいけない悪いことだよ。」「と言って注意する。
- ・ 「やめなよ。」「やっちゃダメだよ。」「と言って、止める。

注意や、止めることができるときは、先生やまわりの大人に伝えて注意してもらいましょう。友だちに「いけない。」「と早く気づかせてあげることが大切です。

では、お話の続きを見てみましょう。



演出ノート

・ 良いことを思いついたように

・ いじわるするように

○子どもたちに語りかける。

○挙手を求める。

○挙手を求める。

※刑法の器物損壊罪。

※刑法の器物損壊罪。

○画面のブタレ太君を指し問いかける。

○挙手を求め数人を指す。

ちょうど、廊下を通りかかった先生が、教室に入ってきて、

先生 「おい。きみたち、自分たちが何をやっているのか、分かっているのか。」
と、話しかけてきたのです。

イタズラ 「あっ、先生。」

イタズラ君は、先生の声にビックリしました。

それと、同時に、自分のやっていることが、とても悪いことだと気付いたのです。

イタズラ 「僕が、こんなことをされたら、すごく嫌な気持ちになります。」

タンキ君に謝ります。「

イタズラ君は、反省して先生に言いました。

◎ 自分がされたら嫌なことは、友だちもされたら嫌な気持ちになります。みんなが、気持ち良く生活できるよう、今、イタズラ君が気付いたように「こういうとき、友だちはどう思うか。」と相手の気持ちを考えることが大切です。

まわりの人の気持ちを考えて行動する、思いやりの心を持ちましょう。

◎ それでは、ここで、皆さんに質問します。

ここまでのお話で、イタズラ君は、どんな悪いことをしたでしょうか。

答えてくれる人は、手をあげてください。

(二〜三人に考えを聞く。)

◎ そうですね。

- ・ フタレ太君の頭をわざと叩いたことが、きっかけでしたね。
 - ・ 教室の中で追いかけてこをしたこと。
 - ・ タンキ君に体当たりをしたことや、そのとき、直ぐに謝らなかつたこと。
 - ・ タンキ君に殴られたあと、タンキ君の胸倉をつかんだこと。
 - ・ タンキ君とケンカをしたこと。
 - ・ 掃除用具入れを蹴飛ばしたこと。
 - ・ タンキ君の国語のノートに落書きをしたり、ゴミ箱に捨てようとしたこと。
- が挙げられます。

◎ イタズラ君は、先生に声をかけられ、自分のやっていたことが悪いことだと気付くことができました。

先生に声をかけられる前に、気付いて反省できると、もっと良かったですね。



演出ノート

・ 大声で怒ったように

・ おどろいたように

・ 反省したように

○ 子どもたちに語りかける。

○ 文字を示し、ボードに貼る。

○ これまでの画面を並べ、イタズラ君を指し問いかける。

○ 拳手を求め数人を指す。

○ これまでの画面を指しながら説明する。

授業が始まるチャイムが鳴りました。

そのとき、ちょうど、タンキ君が保健室から戻ってきたので、イタズラ君は、

イタズラ 「さっきは、いきなり、ぶつかっちゃって、ごめんね。おでこ、痛かった

よね。怪我までさせて、ほんとうに悪かったよ。ごめんね。」

と、何度も謝りました。そして、ためらいながら、

イタズラ 「それから、タンキ君に殴られたことが悔しくて、タンキ君のノートに、

落書きしたんだ。ごめん。最初に、僕がぶつかなければ、タンキ君だ

って、僕を殴ったりしなかったのに……。ごめんなさい。」

と、正直に話し、頭を下げた謝りました。

すると、タンキ君も

タンキ 「僕も、カッとして、思わず殴っちゃったんだ。ごめんね。」

と謝りました。

イタズラ君も、タンキ君も、自分の悪かったことを謝ることができました。

フタシ太君は、「まだ、みんなで、仲良く遊べる。」と思うと、うれしい気持ちに

なりました。

◎ 皆さん、頭にきているとき、イライラしているときなどは、まず、心を落ち着かせましよう。なかなか、心が落ち着かないときは、「深呼吸を何回かする」、「その場を離れる」、「少し時間をあける」など、工夫をしてみましよう。そのほかにも、「違うことを考える」、「楽しかったことを思い出す」なども、良い方法です。

◎ 心が落ち着いてから、三つのこと

- ・ やって良いことが悪いことが、自分で考え、正しい行動をとる。
 - ・ 悪いことはしない、強い心を持つ。
 - ・ まわりの人の気持ちを考えて行動する、思いやりの心を持つ。
- をよく考えて、正しい行動をとることが大切です。

◎ この三つのことは、大人になっても、とても大切なことです。では、皆さんで、声を合わせて読んでみましょう。

- ・ やって良いことが悪いことが、自分で考え、正しい行動をとる。
 - ・ 悪いことはしない、強い心を持つ。
 - ・ まわりの人の気持ちを考えて行動する、思いやりの心を持つ。
- ◎ ありがとうございます。

この大切な三つのことをしっかり身につけて、いつも正しい行動がとれ、まわりの人に優しくできる、素敵なお兄さん、お姉さんになってください。



演出ノート

・ 申し訳なさそうに

・ 素直に

・ 素直に

○ 子どもたちに語りかける。

○ 文字を示し、ボードに貼る。

○ 文字を指しながら説明する。

○ 文字を指し、指導者が読んだあとに続いて読ませる。

◎ 今日は、

- ・ 他人を殴ること
 - ・ 学校の物などを壊すこと
 - ・ 友だちの物などに落書きをしたり、隠したり、捨てたりすること
- そういう行為は、警察に捕まるような悪いことで、犯罪になると勉強しました。
- また、
- ・ わざとではなくても、他人に怪我をさせたら、犯罪になることがある
- ということも勉強しました。

◎ 犯罪になるような行為をするのは、絶対にやめましょう。

「犯罪になるような行為は、絶対にしない。」と、約束してくれる人。

◎ ありがとうございます。

いつも、心を落ち着かせて、三つのことを考えながら、行動していきましょう。

◎ また、暴力を振るわれたり、物を壊されたりしたときは、必ず、先生やおうちの
人に相談しましょう。

そして、警察に話をするときには、おうちの人と一緒に行きましょう。

◎ それでは、これで「考えよう やって良いこと 悪いこと 休み時間に」の紙芝
居をおわります。

おしまい



演出ノート

○子どもたちに語りかける。

○挙手を求める。